

会報

49号



函館の歴史的風土を守る会会報
 No.49 H 7.3.1
 発行所 函館の歴史的風土を守る会
 事務局 函館市五稜郭町43-9
 五稜郭タワー株式会社内(中田)
 電話 (0138) 51-4785
 印刷所 双葉印刷 電話 53-7730番



**第17回 函館の町並みを美しくする
 新春チャリティーパーティー盛大に開催される**

歴風会が総力を結集するメイン・イベントの「第17回函館の町並みを美しくする、新春チャリティーパーティー」は去る2月17日午後6時30分より五島軒本店で開催され、遠藤烈子実行委員長と副実行委員長に菅野剛造氏を迎えて、300名を超える参加者で大盛況を呈した。

遠藤烈子実行委員長の挨拶があって、受賞者が紹介され、順次登壇した。

今年第12回歴風文化賞授与式は、越中谷浩子会員による「原風景宣言文」の朗読で開始され、選出された保存建造物・再生保存建築物各2件、団体として北海道写真史料保存会がそれぞれ受賞された。

授与に先立ち、浜島会長より、「本来チャリティーの益金は函館市の文化財の保全と保護に使うのが建前となって居るが、今年度は『阪神大震災』による、神戸地方の文化財修復にも役立てたいので、益金の使途についての御理解を得たい」との挨拶があった。

更に本年度の受賞者には、北海道写真史料保存会に所属する山口俊明氏が撮影し、プロカラー函館側の協賛によって作製されたパネルが提供され花を添えた。受賞者を代表して竹田又平会長（北海道写真史料保存会）より、「受賞を励みとして尚一層、函館の文化遺産の保全活用に努力する」と言う力強い謝辞が述べられた。

約20分間にまとめられた受賞建造物や原風景のビデオが上映された後、金子隆敏氏（函館市都市建設部次長）の乾杯で祝宴に入り、和気藹藹と話がはずんだ。アトラクションは「アンサンブルNOA」の出演で、「ムーンライト・セレナーデ」「春の海」他数曲が演奏され盛んな喝采を博していた。オークション・ジャンケン大会、プレゼント抽選会等が行われて時の経つのが早く、菅野副実行委員長の閉会挨拶が終わったのは、予定時間を大幅に経過していた。

平成6年度 歴風文化賞（第17回）

原風景 = 宣言文 =

◎外人墓地

「外国（とくに）の岸辺にぞ眠りませ水兵（かこ）よ……」と詩を添えられてペリー艦隊の水兵二人が永久（とわ）の眠りについている。場所は函館市船見町の高台にあり、遠く故国アメリカを望む。これが函館の「外人墓地」の始まりで、140年もの歴史を刻み、プロテスタント墓地、ロシア人墓地、そして中国人墓地がよりそっている。故郷を遠く離れ、異国の地に葬られている埋葬者達の思いはどのようなものか、推し量ることともできない。函館市民から大切に保護されて今日に至り観光の名所ともなっている。

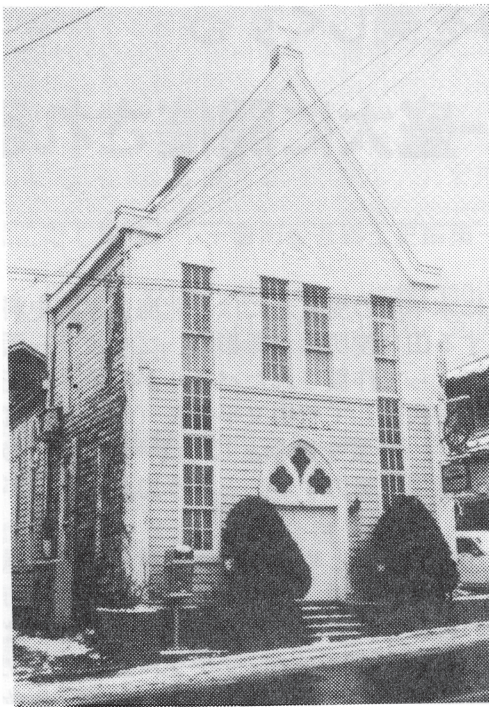


函館の「原風景」として今後とも見守ってゆきたい場所として、ここに宣言する。

保存建築物

◎元町港ヶ丘教会（旧日本基督教会函館相生教会）

（函館市元町15-22 清水 憲朔 様）



明治14年(1881)現在地に最初の教会が建設された。明治40年焼失そして再建され大正10年にも焼失。現在の建物は昭和9年に再建されたものである。

再生保存建築物

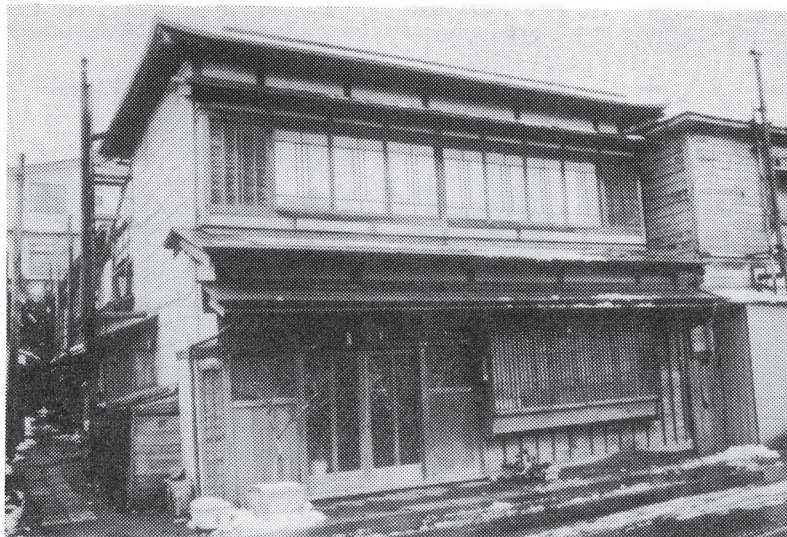
◎サンタが函館にやってきた

ラッキーピエロ十字街銀座店

（函館市末広町8-11 王 一郎 様）



大正10年、大火後の「銀座通り」に、建築当初は理容室としてオープン、その後倉庫として使用されていた。平成5年5月建物のかかなりの部分が大きく傷んでいたが「サンタが函館にやってきた」ラッキーピエロ十字街銀座店として創建当時を十分に考慮し再生オープンされた。



保存建築物

◎松本 邸

（函館市弁天町6-9 松本 啓 様）

この建物は、大正10年代の住宅で最も基本的なタイプの純和風2階建町屋である。建築当時、入口は4枚引戸であったが、その後防寒のため2枚引戸に替っているが、当時の面影は十分に残している。

最近2回の大型地震にも被害はなかった。

再生保存建築物

◎磯田 邸

（函館市元町15-23 磯田 聡之 様）

この建物は、昭和初期庭付純和風木造平屋建住宅として建築された。老朽化が著しく、平成5年12月創建当時のデザインである、さらさら下見板張り・堅繁格子の出窓・格子戸の玄関・玄関上部の破風デザイン等を忠実に守り材料は可能な限り再生利用し、建築された。建築当初の木製の黒塀はこの度植え込みに作り替えられた。



歴風文化賞



箱館写真回廊の内部（函館市本町24-6）

◎団体 北海道写真史料保存会 様

会長 竹田 又平

事務局 函館市昭和4-4-25 フォーカス函館内

「函館は日本写真発祥の地の一つであり、古い写真資料が散逸するのを防ぐために、収集・保存・展示・研究」を目指して、昭和57年9月60名余の会員でスタートした。

旧渡島支庁舎、旧函館区公会堂、金森ヒストリープラザ等に展示場を開設し、平成元年には、本格的な資料館「函館写真回廊」を開館し、広く市民へ公開してきた。

本年4月開館予定の「函館市写真歴史館」に日本最古の写真や、珍しい資料の展覧を計画する等、大きな寄与をし、その活動は道内外から注目されている。

歴風文化賞選考基準

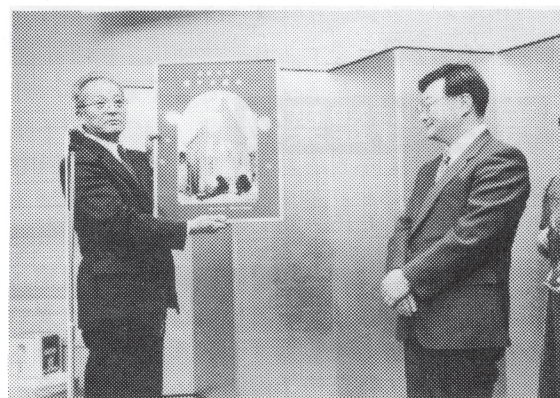
- | | |
|-----------------------|------------------------|
| ① 建物自体の貴重性。 | ④ 歴史性。 |
| ② 持ち主が長年保存への努力を続けている。 | ⑤ 地域の町並みや社会全般へ波及効果大きい。 |
| ③ 景観への寄与。 | ⑥ 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である。 |



(受賞者の紹介をする会長)



(授与式は和気あいあいと)



(山口氏寄贈のパネルを披露する)



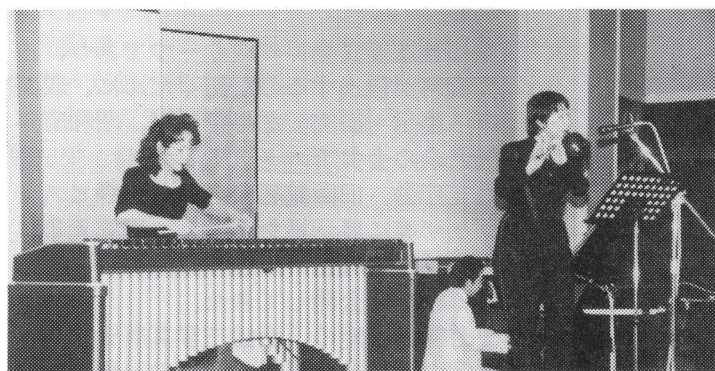
(金子氏の乾杯でスタート)



(正・副実行委員長挨拶)



(受賞者を代表して竹田氏の謝辞)



(アンサンブル NOA の熱演)



(寸暇をさいて打合せする司会者)



(なごやかな受付風景)

ご挨拶

実行委員長 遠藤 烈子

ご紹介いただきました、遠藤烈子でございます。
第17回歴風会新春チャリティパーティーの実行委員長をおおせつかりました。その任ではございませんが、皆様のご協力をいただき、つつがなく進行させていただきたいと、お願い申し上げます。

さて、歴風会が仲々の活躍をしていると云う事は存じておりましたが、本日、目の当たりにこの様に大勢の方々が、函館の歴史風土を“学び”“知らせ”“守ろう”としてお集まりになってると云う事を、私自身がそれを実感する事が出来て、本当に嬉しくなりました。

あらためて皆様方の函館市を愛する心を、実に有意義なものであると実感いたしました。

省みますと、一度でも箱館の地をふんだ事のある人々、観光客の方、また、通称函館チョン族と云われる方々は一緒に、函館ってとてもよい街ですね、とおっしゃいます。何が良いのでしょうか？

- 1に、身近に海あり山あり（行楽地が近くにある）
- 2に、気候は暑からず寒からず（適当に暑く、適当に寒い）
- 3に、食物が新鮮でうまい
- 4に、ネーちゃんがきれい！（持説）

女性はやさしくて、美しい！うれしいですネ
すなわち人情味豊か！情味のあふれる街であると申し下さいます。それか、あらぬか、わかりませんが、独身の通勤族は帰る時、函館からお嫁様を連れて帰ると申します。

こうした人間味豊かな性格は、どうして造られるのでしょうか。それは函館の風物、函館の街の雰囲気、函館の街に歴史的町並みを感じ、しっとりした落ち着いた街に生まれ育ったからではないかと思うのです。

最近、歯の抜けた様な感じが、なきにしもあらずですが、こうした外部の人々に賞賛される函館の街を、地元の吾々が守らなくては、誰が守るのでしょうか、と考えるのは当然の事、めぐまれた“宝物”を人間の身勝手な考えで“なしくずし”にしてしまっただけの事ではありません。

歴史的、日本文化の遺産を吾々の手で守ろうではありませんか。

次の時代に吾々が残していけるものは何なのか。如何にすれば良いのか、じっくりとあらためて考えてみようではありませんか。

本日は春の一夜を楽しんで、明日への英気と力を蓄えていただきたいと思います。

市立東高校校長 福地順一 先生の一文を読んで胸があつくなりました。

日本の象徴である霊峰富士は泣いている。加藤久晴氏の本に“傷だらけの百名山”と云う本があるそうです。帯封に“百の頂きに百の「怒り」あり”と書いてあるそうです。また、八雲のユラップ川のほとり、ピニラの丘に 鶴田知也氏の文学碑に“不遜なれば未来の悉くを失う”とあるそうです。人間の不遜な思いあがった考えが、大事な歴史的な日本文化遺産を、そして大事な自然を失う事になるのです。

今一度“不遜なれば未来の悉くを失う”と云う言葉を持ってごあいさつに変えさせていただきます。

（丸卓不動産社長・いちいの会会長）

函館市民の心意気

副実行委員長 菅野 剛造

世間には「函館の歴史的風土を守る」と聞いて、単純に「歴史的建造物、街並み、或は環境を保全して守ろうとすること」と解釈する人が意外に多い。これは、「歴史的」と「守る」の2語が真っ先に目に飛び込んで来たことによって起きた誤解である。

私が思う「函館の歴史的風土」とは、かつての函館に存在した「市民性」のことである。かつて函館には市民意識が横溢していた。そして「函館公園」こそ、そのことを証明する代表例であろう。

公園と言え、殆どが城址や大名などの屋敷跡であるが、函館公園は、金持ちも貧乏人も、官も民も一丸となって、モッコを担ぎ、土を均して造成した、正に市民手作りの公園である。勿論、土地も市民が寄付した。監督は浅田清次郎という料亭を営む老人で、巨額を支出し工事を督励した。その余りの一途さを家人が心配したが、浅田翁は「老翁、畢生の力をこの公園に尽くそう。竣工しなければ死んで瞑することが出来ない。家に財産を遺しても子孫が誤れば忽ち消尽してしまふ。公園に余力を注いで、生前衆とともに楽しむ方が賢明である」と言ってきかなかった。

この浅田翁の心意気に代表される明治の人達の気概こそ「函館の歴史的風土」なのであり、それを「守る」ということは、即ち、今に生きる函館市民の努めとして、後世に、この誇るべき気概を伝えて行くということに他ならない。この度、図らずも副実行委員長役を仰せつかり、改めて、考えさせられたのだった。

（日刊政経情報社社長）

協賛商社のみなさま ありがとうございました。

チャリティパーティーの御協力商社御尊名
（順不同）

棒二森屋・今井・函館西武・函館山ロープウェイ・イトーヨーカドー・五稜郭タワー・第一食品・サッポロウエシマコーヒー・文雅堂・カメラのたねざわ・太田比古象・五島軒・平方亮三・テオー小笠原・BAYはこだて・はこだてわいん・不二屋本店・三和印刷・カネマル・ナシオ・昭和製菓・末広堂・カメラのニセコ・生田ガラス館・コココーラ・北海道雪印販売・ムロタ・大槻食材・カメラのタケダ・魚長食品・割烹中井・山田万年堂・宮腰印房

<シンポジウム報告>

継続望む声強く！問われる新課題への姿勢！

古川 満寿子（運営委員）

シンポジウム「生活環境の保全と開発」は、去る2月4日、函館市民体育館に於いて約50名が参加して開催された。

浜島歴風会会長より、シンポジウム開催までの経過と意義について、本日は結論を導くものではなく、問題の提起だと云う

挨拶があり、奥平先生の基調講演があった。その後無指定地域の乱開発に重点を置き、パネラーより次の提言がなされた。

- ・金子隆敏（函館市都市建設部次長）
都市施設が不十分のまま無指定地域に市街地が形成されるため公共投資の効率も悪い。1畝以下の宅地開発は現行法では抑制しようがない。

景観条例を全市的に広げ行政指導できるよう検討していきたい。

- ・本吉正幸（函館市農業委員会事務局長）
当委員会の農地転用許可事務より、非農地の現況証明を出すことが乱開発の一因かも知れない。今後もこの問題に取り組んでいく。

- ・松倉政七（函館農業協同組合長）
函館の農業地域と都市地域の調和のとれた土地利用計画のために農地を宅地に提供することは止むを得ない。行政は函館地区の将来の人口を見通し安い宅地を確保してほしい。

- ・奥山三雄（北海道建築士会函館支部長）
無指定地域は小規模住宅建築の確認申請もいらない所。函館は宅地が絶対的に不足。行政は宅地を増やす施策をすべきだ。

乱開発抑制には法の網を被せるしかない。

- ・村岡武司（元町倶楽部代表）
イギリスでは都市と田舎の区切りが明確。これからはエコロポリス（生態学を基にした都市作り）を考えるべき。

開発させない地域を明確にし、現在ある

地域を有効に使い代えることを促すべき。又、市民はシビクトラスト、グランドワードトラストなどの動きを作っていくべきである。

討論の中では都市計画へ市民参加をとく、豊かな自然環境を好んで無指定地域に住むのは乱開発なのか、そして今ある街をもっと魅力あるものにしたら乱開発は防げるのではないか等の意見がだされた。

最後に奥平先生が函館の将来を見据えた都市計画が作られ、市街化調整区域の緩和も考慮に入れ、きちんとした土地利用計画の下に開発を考えるべきとまとめられた。

聴衆の1人は終了後、「このままで終らせることなく、渡島支庁からもパネラーに出していただき、もう少し、突っこんだ討論が欲しいので、是非継続されたい」と云う感想が聞かれ、石井満担当運営委員は「今後も現地調査会等を開催したい」と今後の取り組む姿勢を示した。



<ざらり講師陣も緊張気味>



<シンポジウムに先立つ現地調査（平成6年）>

<シンポジウム基調講演>

都市景観保存のために

北海道教育大学函館分校教授 奥平忠志

1960年代に始まる高度成長に伴い、日本全国各地で高速道路、高層建築物、ニュータウンの建設などが進められてきた。これらの事業は、都市の機能性、効率性を飛躍的に高め、都市生活を便利にしてきた反面、地域住民に親しまれてきた緑地や歴史的な建造物を消滅させ、都市の快適性や心地よさを低下させたことは否定できない。幸いにして函館は1960年代～1970年代に至るまで極度の高度成長からは取り残されたために古い建造物は他の同規模都市に比べてよく残されたが、無計画な市街地の拡大、きちんとした都市計画・政策を持たなかったことから市街地の拡大は郊外の緑地環境を破壊し、今日もまだその破壊が続いている現状にある。

ところで、私がテーマとしてあげた都市景観とは、その頭に良好なという修飾の言葉が付け加えられることは言うまでもありません。良好な都市景観は、人々の心に安らぎと潤いをもたらすばかりでなく、まちに対する愛着や誇りを自然にもたらししていくという不思議な力を持っています。現に、私達函館市民は、歴史的な町並みを「まちの顔」として誇りを持っていますし、都市の中には公園や川辺などを「まちの顔」としているところもあります。

しかし、函館を含めて多くの都市は、都市景観に配慮の欠いた建築物や広告、ネオンサイン、カミソリ型護岸の川辺、市民の憩える公園や空間が残念ながら少ない。

市民所得が向上し、生活も欧米並とまでいかないが、ある程度改善されてきたことから、生活のゆとりや豊かさを求めるようになり、都市空間の快適性や魅力に関心をもつようになってきた。「国際観光都市」を宣言した函館に住む市民にとっても今の函館の都市景観が「緑が少ない」「都心部の景観が貧弱だ」「郊外の市街地は未舗装の道路」「郊外の緑地がどんどん失われてくる」「景観に馴染まない建築物が建てられる」などこれで「国際観光都市」と胸を張って言えるのだろうかという声が聞かれるようになってきた。すでに遅きに失したとの声もあるが、まだ私は遅いとは思わない。日本の他の都市から較べると、多くの良好な都市景観が残されているし、無計画な都市の拡大はくいとめられると信じている。この不景気の時期こそ少なくとも21世紀に快適な生活をエンジョイできる世代の人々に何がしてやれるか、何から手をつけたらよいか考え、それが都市政策に反映させる努力が必要であると思います。

そこで今日のシンポジウムでは、いま私の述べた観点から、次の5つの点について議論を深めて頂きたいと考えております。

1) 緑と景観

既存の市街地の緑→既存の市街地には既に人間の手の入った構造物や人間の行動空間が存在する。それを認めた上で、何が出来るか→既存の公園、緑地はそれを維持し、管理する方策を講じる。個人の家屋、アパート等の居住空間、道路や陸橋の構造物、工場などの敷地や河川敷→その場の環境特性に対応した緑の配置

市街地周辺→農地・森林の境界は、明瞭に緑の配置による区分を、規制の強化を。

2) 水と景観

水空間の実用性→経済機能（港湾）、都市環境保全機能（ヒートアイランド現象の緩和、微気候の調整）、生態保全機能（魚、鳥、植物）、レクリエーション機能、防災機能（オープンスペースの利用、防火帯）
このように多彩な機能を都市政策の中でどの様に守り、生かすか。

3) 歴史と景観

歴史的建造物→建造物の保存には経済的な裏づけが必要（ナショナルトラストの運動は市民から、そして国民へ）
建造物の災害対策の必要→神戸の経験から学ぶ→早急な診断を

4) 行政と景観

歴史的景観の保存については市民運動となったが、醜い商業ビル・マンションや広告物が氾濫しても慣れっこになって何も言わない市民、この状況の中で都市景観の取り組みを行政施策として遂行することは、活動を奪われるという企業の声の前に尻すぼみ、必要なこと→1.首長のスタンス、2.都市景観（都市デザイン）専門のスタッフ確保、3.他の部局の認知と協力、4.景観行政としてより幅の広い取り組みに移行できるか。

5) 市民と景観

市民が都市景観づくりに具体的な関心をもつことが必要である。景観づくりのために関心をもってもらいたい5つの指標。

- ① 防災・危険指標（安全な街をつくるために）
- ② 環境汚染郊外指標（健康な街をつくるために）
- ③ 景観指標（街を美しくするために）
- ④ 文化指標（街の文化や歴史を知り、市民の文化性を高めるために）
- ⑤ 自然環境指標（自然を再発見し、その大切さを知るために）



熱心に聞きいる聴衆

工藤 光雄さんを偲んで



在りし日の工藤光雄氏

市議をなさっていられた方と伺っておりましたが、ちっとも気負いがなく穏やかで、誠実な印象を受けました。

函館の運動が美事な成果をあげておられるのも、こうした方々の力によるものと心から敬服いたしております。

小樽でも運動の初期の方々には故人となりました。運動は、これを受け継ぐ人が育ってくれることがとても大切です。

先駆者としての工藤さんの生き様を見て、若い世代の方々が育つことと思っています。

温厚ゆたかな工藤さんの面影を思い浮かべつつ、函館を愛し続けたご生涯を偲びつつ、心から御冥福を祈ります。

小樽再生フォーラム顧問 峰山 富美

先頃、全国町並連盟の新しい会長となられた竹田嘉兵衛さんの訃報に驚いたばかりなのに、この度は工藤さんの御逝去をうかがい暗澹とした思いであります。

工藤さんとは、二・三度ほど話し合ったという程度のお交りでしたが、とても印象深いお方でした。一度は五稜郭のタワーの一室で熱っぽく、函館の町づくりについて語って下さり、もう一度は函館歴風会の方々が小樽に来られるというので、前もって下調べにおいでになった時です。なかなか行届いた気くぼりをなさっておられ、凡ての運動に対しても、きめ細かに配慮されておいでの様子をうかがわれる思いがしました。住民運動というのは、前面に立つ人を支える人々の動きがなければならず、又運動にかかわる人々の潤滑油になる人が存在しなければならぬように思います。

そうした運動の大事なところを、工藤さんは十分に心得られて、よき働きをされたのではと思っています。「運動は人なり」そんな言葉があるかどうかわかりませんが、私にはやはり「人」によると思っています。



歴風会の小樽・札幌への研修会('90.9.30)

故 工藤 光雄さんのプロフィール

昭和8年4月	函館市に奉職
昭和14年3月	入営（満州）昭和20年終戦、ソ連抑留2年
昭和20年1月	勲七等 瑞宝章
昭和37年5月	函館市観光課長（初代）
昭和52年4月	退職し五稜郭タワー㈱入社
昭和54年4月	函館市議会議員（3期12年）
平成3年8月	函館市功労者表彰
平成4年11月	北海道社会貢献賞
平成5年3月	新函館観光基本計画検討委員会委員

《関係団体……23団体より抜粋》

函館の歴史的風土を守る会（事務局長）
 函館市文化団体協議会（監事）
 箱館奉行所復元促進期成会（事務局長）
 はこだて日本の風情の会（会長）
 北海道日中青少年交流会（会長）



いつも手際良い議事をする工藤さん

工藤光雄事務局長のご逝去と 今後の歴風会の運営について

函館の歴史的風土を守る会
会長 浜島国四郎

◆訃報

平成6年10月27日、午前7時30分頃、工藤さんの娘さんからの電話に思わず息を呑みました。つい3日前に弘前への研修旅行を引率して頂いたばかりで、とても信じられませんでした。

会社の社員研修旅行の途次、東京駅のホームで倒れられ、救急車で病院に運び込まれたとの事です。傍に会社の方々が居りたこと、医師・看護婦の手厚い看病があったことがせめてもの救いであつたらうと思ひます。しかし、奥様はじめご家族の悲しみは如何許りかと思えば、唯々、言葉も無く、安らかにと祈るのみです。

歴風会の創立時、会の要となる事務局長を引受ける人が居なく、座礁に乗り上げようとした時に、自ら手を上げて就任されたと聞いて居ります。その後の工藤さんの強靱な信念と活躍があつたればこそ、今日の歴風会があることは、皆さんの良く知るところでもあり

ます。函館を誇りにし、歴風会を心から愛した工藤さんのあまりにも突然の訃報でした。

◆対応

先づ三役（正・副会長、会計、事務局長）を召集し、新聞広告で一般会員への周知を計り、「れきふう」の号外で追悼文集を出すことを決めた。残された膨大な資料と帳簿類の整理に取りかかった。

◆事務局

五稜郭タワー棟の中田氏と面談した後に田尻副会長と共に中野社長と会談した。この場で従来通り、タワー内に歴風会の事務局を置き、その窓口として中田氏が当たると云うことで了解を頂き、更に従前に引き続き、会の運営上で必要な時は、事情の許す限り会場使用の許可を得ることが出来ました。ありがたいことだと思ひます。

◆事務局体制

総会迄は、窓口をタワーの中田氏と浜島会長・副会長・会計を中心に従前の形で進めるが、今期を会の在り方及び事務局体制等を抜本的に見直す時期と捉え、検討委員会を設け、結果を総会に諮り、以後これによって運営する。検討委員会は三役と石井・宇野・吉村委員で構成する。

◆当面する課題

夫々に担当する運営委員を決めて進めていく。

- (イ) チャリティ・パーティー（若山委員）
- (ロ) 市街地周辺の環境保全・景観に関する件（石井委員）
- (ハ) 西部地区遊歩道に伴う件（上貞・千葉委員）
- (ニ) 友好団体への対応（三役）
- (ホ) 継続事業
「はこだて史譚」「絵はがき」販売（全員）

※5月中旬以降に予定している総会までに今後の会の運営・事務局体制等に関するご意見などいただければ幸いです。



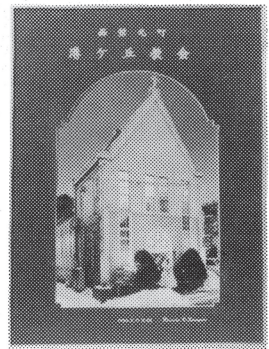
（亡くなる3日前の弘前研修会で、中央が工藤さん）



（山口 俊明 氏）

トピックス

山口俊明氏（函館写真館勤務）は永年にわたり、市内の古建造物を撮影し記録し続けてきている。今度、第12回歴風文化賞の受賞建造物4件を、㈱プロカラー函館・㈱文雅堂の協賛を得て大型パネルを作製し、歴風文化賞の副賞として歴風会に寄贈された。2月17日より3日間、今後も文化財としての建造物を撮影（記録）を続けるにあたり、所有者や関係機関の御協力をお願いする意味で、今迄の作品を展示し『函館の歴史的建造物』と題した特別写真展を五島軒本店で開催し好評を博した。



（寄贈されたパネル）

グループだより

- ◇おのおの No.30 ('94.11.15) (大野町文化財保護研究会)
大野町文化祭で「野鍛冶」の復原や「仏像展」「せんべい焼」等を公開して賑わった。工藤光雄事務局長の計報を掲載。
- ◇Ponte No.3 ('94 秋号) (勝関橋をあげる会)
鹿児島市甲突川の五大石橋問題について「歴史的土木遺産の保存と活用をめぐる」のシンポジウム開催や「動く橋サミット」の報告を掲載。
- ◇すみだ川 第14号 (隅田川市民交流実行委員会)
隅田川を中心に都内の各河川浄化の取組みや、「首都圏の水辺環境」再発見ウォーキング（年8回開催）の記事 e t c. (個人 2,000円、団体 1万円 で年間 160万円以上の会費収入があるとのこと)。
- ◇町並み通信 第16号 (全国町並み保存連盟事務局)
・五十嵐副会長が会長代行に就任。
・次期(第18回)全国町並みゼミ開催予定の犬山市が辞退する意向であること。
- ◇こみゅにけいしょん 第11号 (小樽再生フォーラム)
・10周年誌を道新出版局より出版計画中、150頁、1部 2,500円、部数 3,000冊 (内 1,000冊が小樽再生フォーラム協力分)、その他例会の様子や新入会員の紹介、会員動向 (現80人) を掲載。

「はこだて史譚」 - 會田金吾郷土史論集 -

B 5判 303頁 ¥2,000 送料 380円
内容：函館・神山の石仏群、桔梗の開拓、安倍安東氏と蛸崎氏の北渡関係年表など

「旧北海道庁函館支庁庁舎」 絵はがき

カラー刷 5葉セット ¥300
前値は 500円でした。いよいよ復元完了しましたので値下げしました。

「歴風会」に入会しませんか？

函館の歴史的風土をあなたと共に学び、知らせ、守って行きたいのです。
年会費 3,000円 団体会員年 5,000円

※お申込みは、浜島 (52) 0856
加賀谷 (52) 6094まで

事務局日記

- ☆10月15日 函館市文団協の創立30周年記念式典祝賀会、市民文化交歓会の集いが五島軒本店で開催、加賀谷・吉村会員参加した。
- ☆10月22日～23日「弘前市の史跡・文化財を訪ねて」の研修旅行で、弘前市観光協会坂本崇氏のご案内を頂いた。参加者7名。
- ☆10月26日 工藤光雄事務局長、上京中急逝された。同31日、通夜。11月1日、告別式が高竜寺（函館市）で営まれ、会員多数がご冥福を祈る。
- ☆11月12日 95年度全国町並み保存連盟役員会に田尻副会長が出席した。
- ☆11月16日 「足達先生を囲む会」に当会より5名出席した。
- ☆11月21日 運営委員会開催（13名出席）。会の現状と今後の運営を協議。「れきふう」の号外を発送する。
- ☆11月26日 工藤宅で偲ぶ会（7名参加）
- ☆12月3日 運営委員会（14名出席）チャリティの打合せをする。
- ☆12月7日 函館市都市景観条例の基本的な考え方の説明会が「函館市働く婦人の家」で行われた。
- ☆12月18日 第17回チャリティ・パーティーの実行委員会を遠藤烈子実行委員長の下で開催。
- ☆平成7年2月4日 シンポジウム「生活環境の保全と開発」を函館市民体育館で開催。
- ☆2月5日 チャリティの最終打合せ実行委員会開催。
- ☆2月17日 第17回新春チャリティ・パーティー開催。御協力・御賛同を賜りました各位に心から御礼を申し上げますと同時に、遠藤烈子実行委員長・菅野剛造副実行委員長には本当にご苦勞様でした。

編集後記

- ◇ 第17回チャリティも無事終了した。白髪で笑顔の工藤さんが会場のどこかにいるような気がしてならなかった。
会場を駆けずり廻って、多くの参加者より感想を聞いてみた。式典・運営について百人百様のご意見を頂戴出来たので、次回に役立てたい。
- ◇ 「事務局日記」は浜島会長のメモから作成した。1日も早い「事務局」体制の確立が望まれる。
- ◇ 本号の写真は、飯田・池内・宇野・山口、他の皆さんの御協力を得ました。感謝。（落合）